

## 会 議 記 録

会議名称	令和3年度 第2回健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会	
日時	令和3年12月14日（火）午後6時00分～午後8時00分	
場所	杉並区役所 東棟6階 教育委員会室	
出席者	委員	8名 松尾委員、長崎委員、植田委員、裕尾委員、芹澤委員、鳥井委員、小寺委員、野田委員
	事務局	9名 地域活性化担当部長、スポーツ振興課長、計画調整担当係長、施設管理係長、事業係長、施設管理係主査、担当者3名
傍聴者	0名	
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 杉並区スポーツ推進計画の改定に向けた取組について</p> <p>資料1-2 第3期スポーツ基本計画中間報告案（概要）について</p> <p>資料2 障害者対象のスポーツ・運動に関するアンケート調査結果</p> <p>資料3 区民のスポーツ・運動に関するアンケート調査結果（抜粋）</p> <p>資料4 行動変容ステージモデルの行動タイプ別の特徴について</p> <p>資料5 改定後の計画体系（案）について</p> <p>資料6 改定後計画における指標の現状値と目標値について（案）</p> <p>資料7 計画改定案の骨格等について（たたき台）</p>	
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 第1回懇談会からの進捗</p> <p>(1) 計画改定に向けた区の基本的な考え方等について</p> <p>(2) 障害者対象のスポーツ・運動に関するアンケート調査結果について</p> <p>(3) 区民のスポーツ・運動に関するアンケート調査結果について</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 改定後の計画体系（案）について</p> <p>(2) 改定後の計画における指標の現状値と目標値について（案）</p> <p>(3) 計画改定案の骨格等について（たたき台）</p> <p>4 今後のスケジュール</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>	
会議要旨	<p>1 開会</p> <p>○事務局 地域活性化担当部長から挨拶</p> <p>2 第1回懇談会からの進捗</p> <p>○事務局 第1回懇談会からの進捗について資料1～4に基づいて説明（省略）。</p> <p>○委員 私自身、競技をやっていく中で、スポーツとは何かということを考えていました。この10年間でスポーツの捉え方が変わってきたと思っているのですが、ただ、やは</p>	

り身近なところは変わっていない。スポーツというのは、一つの自己実現の場であり、健康とは切り離された一つの価値があるものという認識を持っており、運動とスポーツという切り分け方は一般の区民の方々にはなかなか難しいところがあるのだらうと思います。スポーツをやることによって結果的に健康になるというのは分かりますが、健康のためのスポーツというのは、長続きしないのではないかと思います。

10年後の世界をどう見据えるかというのが、今回の議論の一つになると思います。スポーツの捉え方を、もっと議論する必要があるし、スポーツの幅はどんどん広がっていくと思います。

○委員 今までの日本のスポーツというのは、「健全育成のため」とか「健康のため」という「ために」文言がずっと続いていました。つまり、スポーツはそのためにあるというような、何か手段化されているところがありました。

スポーツの価値を中心に、スポーツの幅を広げていくべきではないかという動きが加速化しているのではないかという趣旨の発言であったと思います。今後、スポーツをどう考えればいいのかという重要なご指摘だったと思います。

○委員 資料を見て、障害をお持ちの方がこういうことを思っているのかなということと、活動していく上での参考になるということを感じました。

○委員 「杉並ウエストサイズ物語」という取組があり、私の周りでは体重を10kg落としたというような話を聞きました。地域活動ボランティアを行うとポイントがもらえる取組（長寿応援ポイント事業）もあり、一時的な話かもしれないのですが、そういった取組があると参加しやすいなと思います。

○委員 障害者の要望の中で、施設整備について書いてあるのですが、車椅子を使用する方なら車椅子がただ通ればいいのかというわけではないし、障害者の方がどの程度のスポーツをやりたいのかなどによっても状況は異なるので、施設の利用環境を改善していくためには、様々なことを想定していくことが必要かと思えます。資料4の集計の中で、自分はスポーツが好きだからという人たちは何も言わなくてもやると思う。一番関心を持ってもらいたいのは、ときどきタイプなどの人たちで、スポーツをやってみたいと思う人たちが引き込まれるようなことができればいいのかと思いました。

実際に、やらない、やりたくないという人は身近にもいるのですが、全然やらない人は、無関心で自分にスポーツは必要ないと思っている。だから、タイプ別を見て、やれそうな人を引き込むような取組ができればいいと思う。ある程度の年齢になってくると、やりたくても体が動かなくなってくるので、今まで継続している運動を少しずつやっていくしかないのかなと思いました。

ボランティアの関係も出ていましたが、やっていない人が多い中で、自分がやってみようという気を起こすのはなかなか難しい課題だなと思いました。

○委員 特に障害をお持ちの皆様は、種類も程度も違って、全てがパーソナルなため、施設運営にしても支援にしても、寄り添えるかというのは、そう簡単なことではありません。とはいえ、そこに目を向けていく時代になってきていますので、何ができるのかということを考えていかなければならないです。

○委員 スポーツ・運動の実施状況において、無関心と実行間近タイプが過去の推移でほぼ同じであり、実行間近タイプは本当に実行間近なのかなと思いました。

これからどうやってアプローチしていくかという課題があると思いますが、先ほどお話のあったウエストサイズ物語のようにアピールする標語があると良いと思います。どういうアプローチをしていけばスポーツを好きになってもらえるのかと思いました。

それから、障害者の項目にいくと、ボランティアが欲しいというのは当然だと思うのですが、今お話があったようにきっかけが難しいです。障害者の方も、やはり初対面の人に何か言われると、受け入れがたいところがあるのかなと思っています。いずれにしても、スポーツ・運動を楽しむ人を増やしていきたいなと思っていますが、実際に現場で活動していると、会場の大きさや、人数などの受皿から考えても

今の体育施設や小学校の一般開放や施設開放等では受入れが難しい面もあるので、もう一ひねりする必要があるという気がします。

○委員

私も区内で幾つか、スポーツ団体にヒアリングをされていて気になっていることは、高齢者がコロナで運動をやめていっていることです。ある団体は、120人位いたのが、40人やめてしまった。無関心というデータの分け方ですが、やめた人がどこのデータに属するのかが気になる。そういう人がこれから出てきてしまう時代にコロナによってなってきたので考えていかなければいけない。

スポーツは卒業するという感覚が、部活からあったが、もうやめるという選択をして属さなくなってくる人が特に高齢者が多いので、そこを少しケアしないといけない。2025問題とか2040問題というのが、杉並区も特に大きく抱えていると思う。ある市の住民は、冬に体重が10キロぐらい増加してしまう。夏は汗をかいて動くが、冬は雪が降って動かなくなる。人によっては10キロ変わって、平均で3キロ体重が違うということがその市の政策課題である。政策課題がはっきりしているところは、ターゲティングして施策を打ちやすいが、23区をどうするかというのは、さっきのウエストサイズストーリーではないが、あえて行政が、課題の焦点化をしなければ分かりづらい。

杉並の魅力がある文化の面、それから町会・自治会の活動があつて、3線が通っており、意外と公園が多く、体育施設も充実しているという魅力を使って、まち全体がスポーツレクリエーションタウンというプロモーションをしていく。スポーツや運動に関する好奇心や関心を高めていくことが行える可能性がある気がします。実行間近タイプが増えて、ときどきタイプが減っているというのは、今回特徴的ですが、やめていっている人をどうするかという課題がある。加えて杉並のバックボーンで持っている資源を活用して、焦点化したキャッチコピーで出していくことが、戦略的には必要であると感じました。

○委員

わいスポーツというのは、基本的にはどんなものでしょうか。

○事務局

わいわいスポーツ教室という通称名称ですが、重度心身障害者スポーツ教室というのが正式名称です。重度の方をどこで分けているかということ、ご自身で体育施設に来られない方を重度と考えておまして、その方々が参加できるように送迎バスを家まで回しまして、土曜日の半日にみんなでスポーツを楽しむというのを奇数月にやっております。コロナの前までは、年6回、様々なメニューをしておまして、「ボールで遊ぼう」や、「プールで遊ぼう」、「ダンスで遊ぼう」という感じでやっており、プールは特に人気でした。コロナになって、昨年度は1回も行えずに、今年は何とか定員を絞ったり、介助者と一緒に来てくださいと呼びかけた形でやったりと、細々で行っているという現状です。

障害のある方が参加者ですが、フレンドといって一緒に遊んでくださるボランティアの方も募集しておまして、参加者1人に対して1人から2人の人数を募集し、その募集も毎回定員に達するぐらいです。フレンドの方もたくさん参加しみんなで一緒にレクリエーションを楽しむという行事を行っています。

○委員

大変すばらしい取組ですね。ありがとうございました。

○事務局

何年ぐらい続いているのでしょうか。

○事務局

平成4年からやっております。

○委員

高齢者の方がどんどんやめているという問題。これはどこの層に入っているのか考えた時に、個人でやっている人は継続タイプと答えるかもしれないが、クラブで拠点を持っている人たちがどんどんいなくなってしまう状況がコロナ禍によって起きているというのは大きな問題です。

また、焦点化については、23区の様々な状況の中で、ある程度特徴を生かした、杉並らしいものを出しながら、ターゲットを限定するというのは難しいかもしれませんが、線で捉えて、あるいは面で捉えて、それを特徴化していくというやり方もあるかもしれません。

○委員

資料4について、タイプごとに取り組むターゲットが非常に分かりやすいと思います。

以前は区内で区民プールを利用していたのですが、コロナになってからは全く利用できていません。今、区民の皆さんがどのような利用のされ方をしているか、どういう問題を抱えているかということ、実際に自分の目で見たり、お話を聞いたりできていなかったのも、アンケートの結果を見て、今こんな風に思われているということが把握できました。

また、障害者の方のアンケートから、スポーツもプールも大好きだけれども、受け入れ側の体制から思うように実施できていない方たちに手を差し伸べてあげる支援も、次のステップの中に入ってくると思いました。

それと、無関心・実行間近のタイプの人たちのきっかけづくりに、オリ・パラは役立つ予定だったのですが、そうはならなかった。オリンピック選手は大会が終わると、どこへ行っても引っ張りだこでした。いろんな施設に、一緒にスポーツしましょうとあって、たくさんの方が集まり、一緒にプレーして写真を撮ったり、サインしたり、それが東京オリンピックに出た選手たちは、ほぼ出来ていない。オリンピックと交流し、無関心だった人も金メダリストが大宮前体育館に来るらしいよと聞き、のぞきに行ったらプレーに感動して、ちょっとやってみようと思うはずだったのにそれが出来なかった。スポーツ人口が増えても良かったのに、オリンピックはきっかけづくりに難しかったところがあるので、どうやってスポーツの人口を増やしていくか悩ましいです。

○委員 オリンピックの選手あるいはパラリンピックの選手たちは良い成果をもたらしましたが、その後の広がりについては不十分なところがあります。

東京オリ・パラのレガシーを確実につなぐという視点と受皿の問題ですね。それから委員がおっしゃったように、無関心層は効果が薄いという部分も確かにあると思います。しかし、無関心だから運動やスポーツをしないでよいかということ必ずしもそうではなく、人間は動く動物です。欲求としてやりたければやるというタイプの運動もあれば、やらないと病気になるという意味での必要な運動をどう支えていくかということも考えていかなければいけないです。

### 3 議題 (1) (2) (3)

○事務局 資料5～7に基づき説明(省略)

○委員 資料の7のスポーツの捉え方について、基本的には自発的なものと認識しており、与えられるものではなくて自分で自らやっていくものだと考えた考え方、捉え方をもう少しきっちりしておけば、広がった動きになるのではないかと思います。

○委員 国のスポーツ推進計画の第3期中間報告案の概要の中では、「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる『スポーツそのものが有する価値』を大切にすべきであるとうたっています。今までは「健康のために」、「教育のために」という「ために」文言がついていましたが、スポーツの価値というものを前面に立てて、十分に楽しむことによって得られる効果に着目すべきかと思います。

ここでの重要なポイントは、楽しいということ、喜びに満ちること、そして自発的であるということが重要なポイントです。今までは、競争性や遊戯性などが必要としてきたものに対して、実際に行っていることは、競争のないスポーツがほとんどだったりします。

○委員 目標値の子どもの割合を5%ずつ上げていくというのは厳しいが、その核となる取組は何か。幼児期からの働きかけについては、杉並区の場合、児童青少年課とか学務課等による部分が大きいが、スポーツ振興課はやはり取組のコアとかハブになっていくべきではないかと思います。すぎなみスポーツアカデミーに来てもらうなど、もっと働きかけていかないと、なかなかこの割合が上がっていくという説明ができないと思います。

また、無関心層については、全国平均ぐらいにもっていくために、どういうふうにするかというのが課題です。特に、働いている世代とか女性に特化したものがあってもいいと思います。

あと、スポーツボランティアの数字が25%まで上げられる取組は何かあるのか。ポ

ランティアはやっているけど、スポーツのボランティアをやっていないという人はたくさんいます。高齢でスポーツをやめていく人が、ボランティアに回っていくような循環みたいなものをどうやってつくっていくのかというようなことをしていくといいと思います。

東京の西側のウエストサイドが、新しいストーリーとして他の自治体と事業連携により、新たな取組を実施すると面白いのかなという気がしました。

○委員 目標値については、数字だけではなく根拠を同時に示していくべきであるという動きがございます。政策におけるロジックモデルをもう一回整理し直しながら、指標と事業がきちんと紐づいているかかどうかが、改めて検討が必要かと思えます。それから事業連携の話については、非常に大事なことで、住んでいるところは別の市だけど、でも近くの施設も使いたいよという方は当然いるわけで、お互いが融通し合うみたいなことも考えていただくということになろうかというご指摘だったかと思えます。

○委員 取組として、きっかけづくりが多いが、競技スポーツをいかに継続させるかということも重要です。きっかけになったものを継続させていく場と、ソフトのところをしっかりと考えていく必要があると思えます。

区のビーチバレーコートなど、国際標準のスポーツができる場所があると、多くの選手を招致するなど、注目を集めることができ、スポーツをみんなで観る機会にもつながります。そういった意味で、施設の充実というのは、重要と思っており、それはバリアフリーを含めてです。すぐにはできないと分かっているのですが、9年先を見据えて考えていくべきだと思えます。そういった意味での考え方ということをもう少し柔軟に、考えてもいいのではないかという気がしています。

○委員 区が全部担っていくという話は多分難しい。逆に言うと、やっておられるところを支援するとか、あるいは頑張っている人を表彰するとか、様々な競技力向上の関わり方がある。その辺のまなざしをやっぱり明確に出していく必要があるというご指摘は非常に重要。

○委員 「応援するスポーツの推進」について、東京2020の時に杉並区の子どもたちが応援に行って、その後、子どもたちが何を感じたのか。賛否両論ありましたが、観戦した子どもたちがどう感じたのかという発信をもっとして欲しかった。それがこの応援するスポーツの推進のところにつながっていくのかなと思いました。

○委員 ときどきタイプへの「地域でスポーツできる機会の充実」について、区民大会は一つの大きな目標になっている。杉並区は、去年も今年もコロナ禍でも実施しており、今年は過去最高の参加者となっている。地域でスポーツができる機会であるが、やはり目標というか、発表の場といったところの機会の充実を担っている。区民大会というのはスポーツができる機会だけではなく、目標になってきているところを表現すると良いのではないかと思えます。

#### 4 今後のスケジュール

#### 5 その他

○事務局 今後のスケジュール等について、次第に基づき説明（省略）。

○委員 今回は、計画に具体的文章を一度落とし込んだ形でご提示できればということで、どうぞよろしくお願いします。

○事務局 事務局のほうでもよく検討させていただきまして、次回お示しさせていただく計画案のほうに反映させていきたいと思っております。

#### 6 閉会